

## 報道後の日本大学の対応についての受け止め

8/9の報道後、大学側からは一切の連絡がありませんでした。当日夕方に監督が解任されたことを報道で知りました。解任後も私たちに説明や報告などの連絡は一切ありません。ホームページでは8/9付で8/19まで本部事務が夏季休業するとのお知らせがあるだけです。

本件について、監督に求めてきたことは以下の3点です。

- ①監督がひとりだけを厳しく注意した理由・根拠を明らかにしてほしい。
- ②事実とは違う監督の発言を部員らに対して訂正してほしい。
- ③いじめ行為をした同期と先輩に対して、動機を明らかにした上で指導をしてほしい。

直接監督にお願いしても実現されなかったために保体審・人権救済委員会・学部に助けを求めました。それでも対応していただけなかったため「思い」を文書にして出すことにしましたが、報道された途端、監督は解任されてしまいました。

これらを明確にできるのは監督しかいないと考えています。しかし、監督が解任されてしまったため、どのように解決すればいいのか分かりません。

また、部活にとって監督は唯一の指導者だったため、後任の指導者もない状態の部活・部員への影響はとて大きいものと心配しています。

日大広報から発表された文書には、「人権救済委員会において調査を進めている」という記載がありました。しかし、5月下旬には人権アドバイザーから「パワハラを認定はした。認定したのだからもうこれで調査を終了する。」と調査を打ち切ることを告げられています。また、委員長同席のもとで「パワハラを認定した」との報告も受けています。

今回の大学側の対応を受け、「人権アドバイザーがパワハラを認定して、調査を終えているにもかかわらず、今から何を調査するのだろうか？」と疑問に思いました。

むしろ、「まだ何か調査が続いているのであれば、もし監督に対して何かの処分が必要だと大学側が考えたとしても、その調査結果が出てから適切な処分を下すべきではないか」と率直に思いました。